

ベネズエラ中央大学開発研究センター
CENDES

幡谷則子

(中南米総合研究プロジェクト・チーム)

ベネズエラ中央大学 (La Universidad Central de Venezuela) は、同国で数少ない国立総合大学のなかでも、名実ともに最も充実した組織を誇っている。自然科学系、人文社会科学系ともに多岐にわたり開設されている学部のほか、大学院課程と専門研究機関を併設するいくつかの研究センターが、大学直属で設置されている。

ここに紹介するCENDES (Centro de Estudios del Desarrollo) もそのひとつであり、特に社会科学の分野における開発の諸問題について学際的な研究を行なっている。1984年現在、研究部門は、(1)経済、(2)社会—歴史、(3)文化と教育、(4)社会—政治、(5)科学と技術、(6)都市と地域、(7)開発計画の理論と方法の七つの分野から成り、中央政府の開発政策立案のニーズに応える研究機構となっているのが特徴である。

上記(6)の都市および地域の開発問題と関連の政策についての分野は、CENDESが1961年の創設当初から不断の調査研究活動が続けている分野であり、現在約12名のスタッフによって、理論的にも実際的にも各専門分野から総合的なアプローチが試みられている。

この研究グループとアジア経済研究所は、昨年特別海外共同研究を実施し、協力関係を築いた。今年2月末に開催された最終報告会「産油国の都市問題と都市政策—中東とラテンアメリカとの比較」に際しCENDES側からソニア・N・バリオス教授が来日した。教授は「農村—都市関係の分析—農業投資財の需要」、「ベネズエラにおける都市化と地域発展—1920~1950」等の研究業績のある、都市政策の専門家である。会議ではカラカス、テヘラン、東

京の各事例が報告され、東西の産油国間の、また先発・後発国間の都市問題の比較によって、日本側参加者との間に活発な討議が展開された。なお、バリオス教授の報告は別途、*Urban Problems and Urban Policies in Oil-exporting Countries: The Case of Caracas Metropolitan Area* (S. Barrios et als. J.R.P. Series No.50) としてアジア経済研究所から出版された。

また、CENDESの出版活動にもみるべきものがある。計90数点にのぼる研究報告書・単行書類のほか、近年刊行された機関誌、*Revista de Cuadernos de CENDES* が注目される。創立当時から内部資料として書かれていた *Cuadernos de CENDES* がその前身である。研究論文、書評、シンポジウム報告等で構成される学術雑誌である。第1号(1983年9-12月)と第2・3合併号(1984年1-8月)では、各々「世界およびベネズエラ経済の危機の諸相」、「ベネズエラの教育におけるジレンマ」の特集が組まれた。編集委員会のメンバーは、所長(当時)のH.Sonntagをはじめ、R. Casanova, R. Hausmann, S. Michelena, L. Yero等となっている。

なお、大学院課程には、1983/84年度は、(1)厚生問題と政策、(2)経済開発計画および科学技術開発計画、(3)都市—地域開発計画および教育政策の3コースと、修士以上の専門家を対象とした開発研究(社会科学分野)の博士課程とが開講された。

現住所は以下のとおり。

Centro de Estudios del Desarrollo, Universidad Central de Venezuela, Apartado 6622, Edificio Fundavec-Asovac, Avda. Neverí, Colinas de Bello Monte, Caracas.

CENDESバリオス教授を迎えての、今年2月末の最終報告会(当研究所国際会議場)

